

外国人生徒等に対する取り組み事例⑦

く の り

九里学園高等学校

全日制・学年制・散在地域
留学生の長年の受入れ経験
探究学習「中国人生徒へのインタビュー」
相談室によるサポート



長年、長期・短期の留学生を提携校や姉妹校などから毎年受け入れ、国際交流が盛んに行われている私立学校です。さらに多文化共生をテーマにした探究学習などに取り組んでいます。異文化理解や多文化共生は生徒たちにとって身近なものになっています。

学校名	学校法人 九里学園高等学校	所在地	山形県米沢市
課程・制度・学科	全日制・学年制・普通科		
特別入学枠	無	措置	注意事項の母語または英語表記、ルビ振り、問題の母語または英語訳、問題用紙の拡大コピー。
全校生徒数（人）	433	外国籍生徒数（人）	3
特別枠入学者数（人）	－	日本語指導が必要な生徒数（人）	3

全日制普通科の私立高校です。長年、長期・短期の留学生の定期的な受け入れをしており、多いときにはインド人を 50 名受け入れていました。2015 年からスーパーグローバル・ハイスクール・アソシエイト (SGHA) の指定を、2019 年から文部科学省から地域との協同による高等学校教育改革推進事業グローバル型の指定を受けています。

生徒の実態・とりまく状況

在籍する外国人生徒等 3 名は、家庭の事情で来日し、通常の入学試験を経て入学した生徒です。生徒の日本語の力は、まだ十分とは言えません。そのため、授業もわからない、友人とも話せないということで、相談室で支援を受けている生徒もいます。その他、国際結婚のご家庭で母親が外国籍で海外にルーツを持つという生徒もいます。この生徒たちは十分な日本語の力を持っています。

受け入れ体制

入学前に、中学校からの申し送りや、入学試験とは別に事前面談など行っています。家庭の状況を聞いたり、高校での日本語学習の進め方を相談したりして、個別に対応を進めています。

日本語指導については中国語が話せる国語科の非常勤講師が担当しています。生徒の日本語能力に応じて、担任との間に入って生徒と面談をしたり、三者面談に同席したりする場合があります。

学習指導・支援の工夫と特徴

日本語指導

生徒一人当たり、1週間に4時間、在籍学級の授業から取り出して指導をしています。取り出しは、本人の進路に直接関係のない授業で行い、個別に日本語の指導を行っています。場合によっては、よい関係にある生徒を複数同時に取り出して指導することもあります。日本語能力試験のN3からN2レベルの取得を目標としています。日本の大学に進学する生徒もいるので、N1取得を目指す場合もあります。少しずつ目標を上げていき、学習に対するモチベーションを保てるように指導をしています。

キャリア支援

就職にあたっては、日本語での十分なコミュニケーションができることが必須条件となっており、在学中の日本語学習が非常に大切です。進路指導は日本人生徒と同様に行っています。

就職先として、生徒らの日本語力を理解し受け入れてくれる企業を探したり、縁故採用での就職をサポートしたりしています。

就職を希望する生徒の場合、経済的な問題を抱えている生徒もいるため、進路科（進路指導担当部署）が企業とのマッチングをいかに行うかが課題になります。

特色ある取り組み「探究学習」「相談室対応」

探究学習：「多文化共生」などをテーマにした「探究学習」をおこなっています。中国籍の生徒に、日常での困りごとや文化の違いをインタビューしたり、東南アジアから来日した技能実習生に防災対策のワークショップを市の防災課と連携し実施したりしました。（令和元年度より文部科学省の研究指定校として「地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローバル型」を実施しています。）



相談室対応：相談室で不登校傾向の生徒、教室に入れな生徒や特別な支援の必要な生徒をサポートしています。担当教員が常に2~6名常在し、学習面のサポートだけでなく、ソーシャルスキルトレーニングも行っています。各生徒に合った指導を行い、できるだけ通常学級で授業を受けられるように指導していきます。

学外との連携

次の機関より、多文化共生ワークショップや探究学習のサポートを受けています。

山形大学工学部国際交流センター：グローバルキャンプや探究学習の一環である多文化共生ワークショップに大学の留学生を派遣。

山形県南陽市で技能実習生を受け入れている各企業：多文化共生をテーマとした探究学習への協力。

山形県南陽市の防災課：多文化共生をテーマとした探究学習への協力。

山形県米沢市の国際交流協会の支援員：グローバルカフェという座談会のゲストスピーカー。

今後の取り組み

成績の取り扱い：日本語指導が必要な生徒の成績（評定）の取り扱い方についての検討が必要です。

基本的には5段階評価（評定）の3で出すということで全教科・全科目共通認識を持っています。できるだけ、本人の日本語のレベルに合った内容で進められるように授業を行っているのですが、日本語指導担当教員と教科の連携が取れない場合は難しい部分もあります。また、習熟度の達成目標をどこに定めるのか、まだ明確になっていません。

担当者・指導者について：国際担当と、担任や学年主任との十分な連携が必要です。また、指導者の人材をどう確保していくか検討の必要があります。

家族・母語について：家庭との連携も重要です。母語の発達が十分でない生徒への対応も考えていかなければなりません。

ヒアリング実施日：2021年8月24日